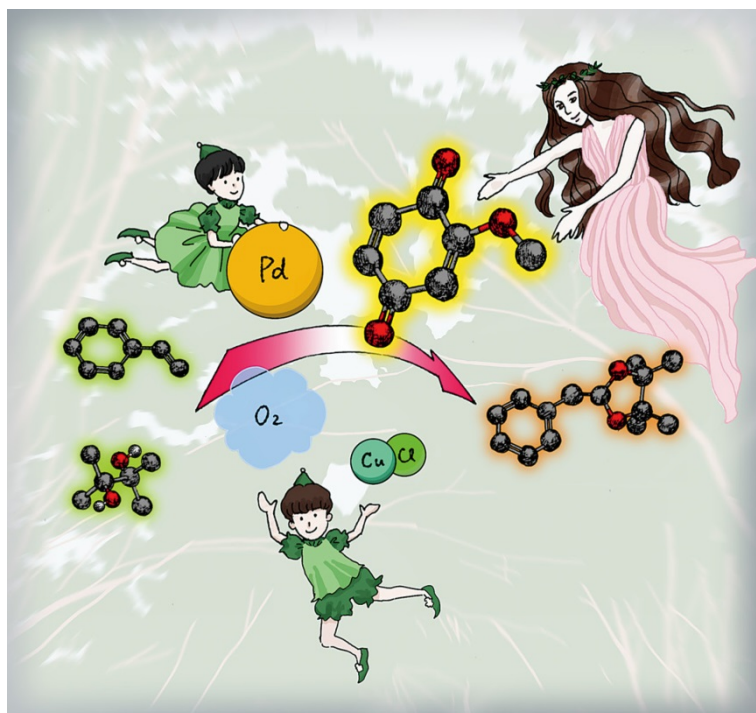


遷移金属触媒を用いた環境低負荷型有機変換反応の開発

化学コース 浦 康之



最近開発した、酸素を酸化剤とするパラジウム/銅触媒による末端アルケンからの末端アセタール（アルデヒドの保護体）合成反応

石油、石炭、天然ガスなどの有機炭素資源が減少しつつある現在、長期的に持続可能な未来に向けて、従来よりも環境への負荷が格段に低い物質変換反応を見出すことが望まれます。私達は遷移金属錯体を触媒として、重要な有機炭素原料であるアルカンやアルケンなどの炭化水素類を基質に用いた環境低負荷型の高難度有機変換反応の開発を行っており、特に、酸素を利用した酸化反応（アルカンの酸化によるアルコールの合成、末端アルケンの酸化によるアルデヒドの合成など）や、副生成物が排出されない付加反応（末端アルケンへの水の付加による第一級アルコールの合成など）の開発に向けて研究しています。また、それらの反応の触媒となる遷移金属錯体の創製と反応性に関する研究も行っています。

キーワード：環境低負荷、遷移金属錯体、触媒、有機変換反応、グリーンケミストリー